

図書館へ行こう！

近ごろ少しずつ朝晩が涼しくなり、あちらこちらで秋らしさを感じられるようになりました。芸術の秋、スポーツの秋…「〇〇の秋」といわれるようになった経緯には、「秋はさまざまな植物が実をつける」＝「実が入る」→「(いろいろな物事に)身が入る」という駄洒落から発生したという説や、食品メーカーや出版業界がそれぞれの業績を上げるために作った宣伝文句だという説などがあるようです。

学院図書館にも読書の秋が訪れました。皆さんの秋が実り多い季節となりますよう、図書館ではたくさんの本をそろえてお待ちしております。

もうすぐ校内読書週間！ まもなく「読書に関する標語」の募集を開始します。今年も楽しい標語を考えてくださいね。

先生方おすすめの一冊

美術科 重信 加奈先生のおすすめ



二宮 敦人 著

『最後の秘境 東京藝大』 ～天才たちのカオスな日常～

芸術科として、進路相談を受けることがある。自分と同じく美術が好きで、それを進路に考えている生徒がいると応援したい。だが不安も多い。好きなことを仕事にできるのか、また好きなことを仕事にすることで、本来好きだったことが嫌になってしまわないか。芸術方面は受験も特殊で、なにより就職が難しいので何かと心配をしてしまう。そんな私だが、「やっぱり好きなことが1番わくわくするよね！」と単純に振り出しに戻ってしまう、そんな1冊を紹介したい。

“入試倍率は東大の3倍！卒業後は行方不明者多発！？”

ある日は木で陸亀を彫り、ある日は顔面に半紙を貼りライフマスクの型取りを、またある日は道具のノミを作りあげている妻。大学の生協で買ったというガスマスクが部屋に転がっている。現役の藝大生である妻を見ているうちに、自分とは別の世界に生きる人たちが集まる場所、東京藝大に作者は興味を抱く。

芸術界の難関校である藝大の絵画科の志望倍率はなんと18倍、19倍である。1000人以上の人が枠を争うため、実力があっても2浪、3浪は当たり前だという。試験当日は実質12階分の階段を重い画材を担いで登る耐久レース。途中で離脱者も出るほどで、ハンター試験と言われているという…。

卒業後は半数以上が「進路未定・他」。確かに普通に就職していたら、芸術を追求するなんてできないのかもしれない。

この本はよくある大学関連本や、パンフレットには載っていない、学生たちの本音が聴けるという点が新しい。インタビュー形式で、すぐ読めるような内容だ。芸術に興味がある人は1度手に取ってほしいし、そうでない人も知らない世界を覗いてみては…。

数学科 日高 希世子先生のおすすめ

川口俊和著 『コーヒーが冷めないうちに』

「とある街の、とある喫茶店の、とある座席には不思議な都市伝説があった。その席に座ると、その席に座っている間だけ望んだ通りの時間に移動ができるという。ただし、そこにはめんどうかい……非常に面倒くさいルールがあった。――中略――

あなたなら、これだけのルールを聞かされてそれでも過去に戻りたいと思いますか？

この物語は、そんな不思議な喫茶店で起こった心温まる4つの奇跡。第一話「恋人」、第二話「夫婦」、第三話「姉妹」、第四話「親子」。あの日に戻れたら、あなたは誰に会いに行きますか？」

帯に4回泣けると書いてあったのが印象的で買いました。本当でした。あの時、こうしておけばよかった…。そんな思いや後悔は、きっと誰でも一つや二つくらいは持っていますよね。私にもたくさんあります。現実を変えるのは、現実を生きる自分の心と行動であるということ。そして、つらい過去や悔しい過去、見たくない未来としっかり向き合うことが大切なんだと思わせてくれた本です。



ブリュッゲル作 バベルの塔 1563年頃
オーストリア・ウィーン美術史美術館所蔵

図書館特別展示「絵画を読もう」より⇒

2学期展示は「バベルの塔」、「1808年5月3日」、そして「無言館」。 平和と芸術について考えてみましょう

来月の読書旬間にあわせて、図書館では恒例の「読書に関する標語」を募集することになりました。今年はどうな楽しい作品が集まるか、とても楽しみです。たくさんの賞品を準備して待っていますよ。

～過去8年間の全国共通標語～

年	標語
2009	思わず夢中になりました
2010	気がつけば、もう降りる駅。
2011	信じよう、本の力
2012	ホントノキズナ
2013	本と旅する 本を旅する
2014	めくる めぐる 本の世界
2015	いつだって、読書日和
2016	いざ、読書
2017	本に恋する季節です！

校内標語の応募用紙は、近日中に
国語科の先生方に配布していただきます。



↓ 今年の全国共通標語



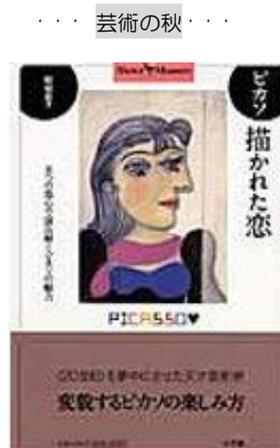
さあ読書の秋です。たくさん読もう、いろいろ読もう、もう一度読もう!! 図書館へ行こう!

『これならわかる

オリンピックの歴史Q&A』

東京オリンピックまで、あと2年あまり...。人々に夢を与え、国際平和のイメージもあるオリンピック・パラリンピックだが、政治利用や商業主義、ドーピング問題など、負の側面もつきまとう。

古代以来のオリンピックの歴史を、光と影の両面をふまえて一冊にまとめる。



結城昌子著『ピカソ・描かれた恋』

難解な先入観を一掃する面白いピカソ入門書。ピカソって気になるのだけれど、何だか難しそう。本書は、ピカソに対するそんな先入観を一掃し、ピカソの魅力と様々な疑問が、面白いほどよくわかるようになる、ピカソ入門書です。本書を読めば、あなたももうピカソの虜。20世紀を夢中にさせた天才芸術家、変貌するピカソの楽しみ方が満載です。

内田良著『教育という病』

私たちが「善きもの」と信じている「教育」は本当に安心・安全なのだろうか？ 学校教育の問題は「善さ」を追い求めることによって、その裏側に潜むリスクが忘れられてしまうこと、そのリスクを乗り越えたことを必要以上に「すばらしい」ことと捉えてしまうことによって起きている！

巨大化する組体操、家族幻想を抱いたままの2分の1成人式、教員の過重な負担...今まで見て見ぬふりをされてきた「教育リスク」をエビデンスを用いて指摘し、子どもや先生が脅かされた教育の実態を明らかにする。



坂田阿希子著『お弁当教本』

毎日でも飽きないお弁当の超定番から、楽しい行楽弁当まで。レシピに、仕込みや味つけ、詰め方など、おいしく作る基本を織り交ぜた1冊です。から揚げ、そばろ、チキン南蛮ごはん、鮭のり弁当など定番のお弁当から楽しい行楽弁当まで、おいしく作る基本をレシピに織り交ぜ、66の項目で構成したお弁当の基本図書！ 将来一人暮らしをする参考になるかも。

スポーツの秋、芸術の秋、学問の秋、食欲の秋...今年の「読書の秋」は、お腹いっぱい本を読みましょ！